

## 平成 29 年度第 2 回市川町総合戦略会議（要旨）

会議名	第 2 回市川町総合戦略会議
開催日時	平成 30 年 3 月 26 日(月) 午後 3 時～午後 5 時
開催場所	市川町役場 4 階相談室
出席者	委員：楠田一利氏、前田宣博氏、木村重己氏、田中基康氏、石田俊平氏 村上和男氏、岩木和子氏、村田敏朗氏、青木 繁氏、小野康裕氏、 津田義和氏 町 長：岩見町長、藤原副町長、竹内総務課長、内藤課長補佐、 藤後係長
会議の議題	1 開会 2 あいさつ 3 新委員紹介 4 協議 （1）平成 29 年度実施事業及び平成 30 年度事業内容等について （2）その他 5 閉会
会議資料	「資料 1」 総合戦略進捗管理シート【KPI 用】 「資料 2」 総合戦略進捗管理シート【事業費用】 「資料 3」 近年の人口変遷 「資料 4」 ちらし等（ゴルフまつりちらし、笠形オーガニックウォーキングイベントちらし、移住定住パンフレット、住宅分譲ちらし、婚活イベントちらし、）リフレッシュパーク市川遊具イメージ図、（川東）認定こども園パース図、甘地駅前公園イメージ図 「資料 5」 市川町総合戦略事業評価シート
協議要旨 事務局	1 平成 29 年度実施事業及び平成 30 年度事業内容等について、事務局より説明 いくつかの事業をピックアップして説明 ②ゴルフクラブの製造業者と連携した商品開発、イベント開催 丸山茂樹監修のアイアンセットの製作、ゴルフまつりの開催 ③観光交流センターを拠点とした特産品開発等 イチコロ（かしわめしの具を用いたコロッケ） ⑤起業、創業の拡大推進 創業支援事業を活用して 2 件創業、1 件不認可 ⑦ふるさと納税の推進 クラウドファンディングに取り組み、災害復興、公園整備、国際理解教育の推進などに賛同する方の寄附を得た。寄附金を増やす取り組みとして、新しい特産品の開発、年末にはお得なセット商品の提供、新しい申

し込みサイトとの契約締結などに取り組んだ。

⑧新規就農者支援事業

H29 はなかったが H30 に 2 人の見込み。それぞれ、北海道、神戸からの転入。

⑪6 次産業化の取り組み推進

商工会による異業種交流により、鶴居のさつまいもの 6 次化に取り組んでいる。

⑰遊休地の利活用

千原の町遊休地を宅地造成して本日 3/26 より分譲。本日の朝刊で、神崎郡内、姫路市一部（夢前、香寺など）、加西市の一部に折込チラシを配布。

⑱空き家、古民家利用施策の推進

- ・さとの空き家支援事業 H29 申請は 1 件
- ・HP 掲載の空き家バンク契約は 6 件成立（13 名の転入）
- ・農地取得条件の緩和

空き家バンク登録の空き家・空き地と合わせて農地を取得する場合に限り、1 m<sup>2</sup>から農地を取得できる。耕作目的に限る。平成 30 年 2 月 21 日から適用。

⑳HP の充実

H29 激増している。増えているサイトは、空き家バンク、水道の工事等。

㉔若者向け住宅取得の支援

H29 は 11 件（U ターン 7 件、町内 4 件）

「フラット 35」の協定締結により、住宅ローン金利の優遇措置

㉕個性的な婚活事業

10 月 サバイバル婚活イベント 2 月 お笑い・占い婚活イベント  
平成 28 年度の婚活イベントによる成婚 1 組

㉖母子保健相談事業の強化

H29～ 新たに妊婦歯科検診を実施（2 歳 6 か月児歯科検診と同時実施）

㉗病後児保育などの推進

H29 は協議も行っていないが、神崎総合病院の広域での開設が H31 からとなっているため、H30 年度から協議も行われていく見込み。

㉘男女共同参画

県の「出前チャレンジ相談」事業を神河町と合同で実施。（11/28 申し込み 3 件）

㉙妊婦健診・特定不妊治療・インフルエンザ予防接種等の助成

インフルエンザ予防接種については、原則として 65 歳以上の方にのみ助成。市川町独自施策として、就学前の子どもに、おたふくかぜ予防接種費の助成を行っている。

㉚公共交通の拡大

公共交通空白地域へのコミバスの運行を開始。

免許返納者半額免除に加えて、75歳以上の方に24枚の無料乗車券を配布。(コミバス、買い物バスともに)

③9 駅施設の環境改善

H30年1月からパーク&ライドの台数を17台に増やした。利用平均は1日8台。

県の補助事業により、甘地駅前公園を改修し、4月の約2週間、但陽信用金庫甘地支店で岩田健三郎氏の版画展を開催。

④0 住宅リフォームへの支援

市川町バリアフリー安心すまいる助成事業を実施。(65歳以上の方が在住している家庭で、段差解消、手すり・スロープ設置などの改修を、町内登録事業者により行った場合、改修工事に係る経費の2分の1(最大40万円)を助成。)

④5 近隣市町との連携による公共交通の拡大

H30年10月からの福崎町との連携実施に向けて協議を進める。

④6 連携中枢都市圏の連携推進

H30から、姫路市がイオンと連携協定を締結している関係で、振り込め詐欺の注意喚起に関してマックスバリュと連携する。

～質疑応答～

委員：甘地駅前公園を改修したということだが屋根はないのか。どうい  
う改修になっているのか。

事務局：屋根はない。イメージ図にある線路側の壁に、岩田健三郎氏の版  
画がずらっと並ぶ形になる。電灯もLEDにしている。

委員：庁内の創生本部会議、庁内推進会議については、どのようなメン  
バーがどのような形態でどういことを協議しているのか？

事務局：創生本部会議は町長をトップとした各課の課長級が出席する会議  
であり、庁内推進会議は各課から担当者数名ずつ参加して地方創  
生に関する内容について協議する。

委員：どういことをされたのか。例えば、会議でこういことがまと  
まり、それを市川町にこう反映していくといういようなことがあつ  
たのか。稲美町で、若手・中堅・ベテランが協議した内容を町長  
に進言していくといういことをしている。

事務局：例えば主な協議内容としては甘地駅、鶴居駅の整備、利活用につ  
いて、創生本部会議で協議し、庁内推進会議においても駅をどう  
していくか、といういことについて協議を行った。H30にそれを受  
けて駅の調査・計画を行っていく予定。

委員：30年度も開催を続けていくといういことか。

事務局：継続する。重点施策、ゴルフアイアン、下水道等などについて協  
議していくことになるとい思う。

委員：来年度、こういう協議を行い、こういう方向性で進めていくことに決まったというのを提示してもらえるか？

事務局：そういった協議を踏まえて今回も、進捗管理シートの事業費用にある 30 年度の実施予定内容をこういった場で説明させていただいている。

委員：5点伺いたい。

①こういう場に出された意見を反映させた結果、こういうふうに変化があったのか、というものがあれば具体的に教えてほしい。

②ふるさと納税の使途について、どういうものに使われたのか。

③農地の集積・集約という項目がないが、偶然入っていないのか敢えて入っていないのか。中山間のこと。法人化については触れてあるが集積・集約については触れていない。

④市川町は県下で血圧が高かったのではないかと。母子健診についての記述はあるが、この点についての取り組みはないのか。

⑤橋本忍の取り組みは戦略に挙げていないのか。銀の馬車道についても市川町だけ目玉となる取り組みがない。逆に言えば、これからの可能性が残っているとも言える。地域創生の予算に組み込まないということではなく、総合戦略に位置付けて皆さんで進行管理するような目玉事業ではないかと考えるが、この進捗管理シートの項目は固定化されたものか？

全体としてはよくやられているな、と思う。他市町と比べてもそれぞれの取り組みについては工夫・特色もあってよく取り組まれているが、少し戦略が乏しいという印象。

事務局：①については、農地はたくさんあるが、宅地が不足しているのではないかと、という意見を踏まえて農振の計画に反映させて見直しを行い、29年度宅地造成事業に取り組んだ、ということが挙げられる。

②の重点的な使い道としては、子育て支援に関する事業。若者向け住宅助成事業、公園の整備などに活用している。

委員：金額は分かるのか？半分ほどとか。

事務局：29年度は130,000千円（3月補正後150,000千円）、30年度は160,000千円ほどとなっている。進捗管理シートにある新規事業の多くに、ふるさと納税を充当している。ゴルフクラブ関連事業、道路の整備、駅の基礎調査などにも活用している。

③の農地の集積・集約については、ここには挙げていないが、ほ場整備等も含めて、農地の集積・集約を行っている。

④の健診データやその取り組みについては詳しいことは分からないが、健診の受診率向上のために健診費の一部助成やPRに努

めていると聞いている。

⑤の橋本忍の件が戦略に盛り込まれていないことについては、ここにある項目がすべてではないので、計画策定時には盛り込んでいなかったが、担当課にも毎年見直しをしてほしいと伝えており、進捗管理シートにある項目は固定化していない。

委員長：ふるさと納税が新規事業にかなりウェイトを占めているということですね。逆に言えば、ふるさと納税がないと事業ができない状態であるということ。

事務局：事業に継続性を持たせるために、ふるさと納税のすべてを事業費に充てるわけではなく、基金に積み立てている部分もある。

委員長：橋本忍の関連では、ここに挙げずに事業は進んでいくということだが、以前にも話が出たように、事業を行っていくにあたってスピード感が重要。スピード感を持って進められているのかどうか、庁内の会議においても皆さんがどれだけスピード感を持っておられるのか、ということが大事であると考えます。

委員：46項目も挙げずにもっと項目をしぼってはどうか。千原で宅地分譲が始まったということだが、2、3年前に西田中で集合住宅を考えたいという話が出たときに、農振の関係で認められなかったことがある。西田中の集落内の小さな田んぼであれば、農振除外しても問題ないのではないかと、という話をしたときに、地域振興課は、「検討します」という返答であったが、その後何も進展していない。人口減少を抑制する、と言っているが逆方向を向いているように見える。検討します、ということであれば、その後につなげていくべきではないか。

先ほど、市川町はメインの事業がない、という話が出たが、商工会の立場で言うと、「ゴルフアイアン発祥の地」であることをアピールしていきたいと考えている。人に来ていただいて、いいところだなあと思ってもらうことも必要ではないか。

そういうことから、項目を2、3にしぼって戦略会議をしてもらったほうが良いのではないかと考える。

委員長：これまでも重点項目については出ていたと思うが、29年度についても30年度についてもよく分からない。

以前も、農業委員会での見直しの回数などの話も出ていたが、やはりスピード感が大事。

副町長：46項目ということでご指摘いただいた件について、27年度にこの総合戦略を立てたときに、こういう項目を協議いただいたと承知している。まち・ひと・しごと創生総合戦略のうちの基本項目4項目の中で、これらの46項目をピックアップしてこれらを中心に進めていくということになった。

またゴルフのPRについては、30年度においても商工会や業者と協力しながら進めていく方針であり、PRの拠点施設の整備については30年度に協議していく。

副委員長：ふるさと納税で、災害支援ということで寄附をいただいたと説明があったが、そのふるさと納税をどの部分に使ったのか、または使う予定なのかお聞きしたい。

2点目として、18番目の農地取得の緩和について、空き家バンクに登録されている空き家・空き地と合わせて取得する場合に限り、と説明があったが、個々に空き家を購入される場合は対象外になってしまう。

3か年で約16億円費用がかかっているが、すぐに評価が出るものではないのは分かるが、かなりの費用がかかるので効果が表れるのを期待する。

高齢者福祉の関係がほとんど謳われていないのが気になる。これまでの市川町を支えてこられた方に対する施策が含まれていない。交通弱者の対応として、もっときめ細かくしてもいいのではないかと思う。総合計画の中で謳っているということなのかもしれないが。

事務局：災害にかかるふるさと納税については、約380万円の寄附をいただいた。災害復旧事業として約6億の災害復旧経費が必要であったが、補助や借金以外の部分に全額充当させていただいた。

2点目の農地取得緩和の空き家バンクの条件については、担当課に確認する。

高齢者福祉の関係が総合戦略に盛り込まれていないことについては、総合戦略が人口減少の抑制、地域の活性化を目的としていることからほとんど盛り込んでいないが、住宅のバリアフリー化の助成事業に取り組んでいる。公共交通については、利用状況を確認しながら、福崎町との連携、料金の見直しなど利便性の向上に努める予定。

委員：姫路市との連携中枢都市圏の部分、実行していない、とあるが、播但線沿線以外の方の交通の便が悪いので、早急に取り組みを行ってほしい。

スケールの大きい事業にも取り組んでもらいたい。

オーガニックの事業、6次産業化などにも支援を続けてほしい。

委員長：このシートを見ると、子育てに関することは実績が上がっているが、産業構造に関すること、農業・商業に関する成果が上がっていない気がする。市川町としては、農業、オーガニック、ゴルフ産業は外せないものとする。

委員：法人化して、異業種の様々な情報が入ってくる。

さつまいもで、糖度の高いものの栽培に取り組んではどうか、という話があった。よくある作物ではなく、ちょっと変わったものに取り組み、一か所ではなく市川町全体で取り組んで特産品化、6次化してはどうかと思う。

委員長：農業については基盤整備が進んでいるので、そこで野菜を作るとなると難しいという問題もある。

委員：市川町の子ども達が郷土愛を感じる事が大事。次に地元の仕事があるかどうかも大事なので、市川町の若い人たちがどのように生計を立てているのか分析してはどうか。

市川高校としても地域社会に貢献したいと考えている。私立の高校としては生徒数が死活問題であり、どうすれば生徒数が集まるかということ常々考えている。地域社会に貢献し、地域に愛される高校にすることも必要である。市川高校の教師約90名のうち約20名が市川町在住者。これも一つの地域貢献ではないかと考えている。

委員：生徒のうち市川町の割合はどれくらいか。

委員：学年によっても異なるが、約8%が神崎郡内。

委員：中学生の頃から、地元への愛着を育むことが大事であると思う。

教育委員会で体験など取り組みも行われているが、もう少しローカル色を強めた取り組みがあってもいいのではないか。例えば市川高校と市川町とが組んで、地域学的、地域体験的なモデル事業を行ってはどうか。

委員：本校の特色として、地元の住職を教職員して採用しており、週に1時間、座禅の授業を通して思いやりの心を育むよう取り組んでいる。昨年初めて郡内の中学校が座禅の体験学習に来られて、うれしく思っている。郡内の中学校に、座禅の希望があれば受け入れます、という案内をしており、そういうことでも役に立てばと思っている。

委員：新聞に「ふるさといちかわ」という冊子ができたということだったので取り寄せた。読みやすくいい冊子だと思うので、是非こういうものを活用して郷土愛の醸成に努めてほしい。

委員：46項目も挙げられているが、行政として当然すべきことも入っている。これをどうやって決められたのか。今やっていることを吸い上げてまとめたようなイメージ。もう少し戦略的な項目を入れては。戦略的な項目があって、それに皆で取り組んでいくような形にできないものか。

観光としては、せせらぎの湯とかりフレッシュパーク市川、観光交流センターがあるが、もう1つ鶴居活性化カフェができ、この4つを観光の拠点として取り組んでいく。

委員：郷土愛を感じさせる、という話であるが、市川カレッジで榎田さんの講座、あれが継続できていないのがさびしい。

笠形温泉の北の笠形山で千人プロジェクトをやりたいなと思っている。仙人滝の仙人と千人をかけて、市川町を盛り上げる事業としてやってみたい。

国道から北東に向かって伸びる県道 34 号線を元気にできないか、と思っている。幅が狭いが、少しずつ整備が進んでおり、いろいろな店ができればいいと思う。

客の取り合いをするのではなく、共有しましょう、ということで温泉業界でも連携を進めている。是非行政でも隣の町とか関係の深い町とかと連携したらおもしろいのではないかな。

前回サイクリングの話をしたが、「北はりまサイクリングマップ」ができた。中播磨はない。船坂、遠坂、釜坂の 3 坂が、自転車乗りの間でヒュークライムの練習場として人気がある。自転車乗りとしては北播磨、中播磨にまたがっているので、行政でも是非連携を進めてほしい。

委員長：姫路市のクラスター型サイクルで、そういうものができているが、その 3 坂は載っていない。

委員：出生率を見て驚いた。老朽化した保育所に通っている子どもたちが、早くきれいな新しい施設に通えるようになってほしい。町外の保育所に通っている子どもも多くいると思うが、できるだけ地元の保育所に通わせたい、と保護者に思ってもらいたい。

おたふくかぜの予防接種について、市川町は早くから取組をしているが、受診率はどれくらいなのか？保護者で理解されていない方もいるのではないかなと思う。3 種混合など大切な予防接種を受けさせていない方もいると思うので、そういうパンフレットがあれば保護者の目につくところに置くようにしてほしい。

副町長：もちろん PR はしていかなければならない。

また 31 年度に子育て地域包括支援センターを立ち上げるため、その取り組みを 30 年度から進めていくが、資格を持っている方を募集してもなかなか応募してもらえない、という苦しい状況がある。保健師、助産師についても同様で、資格のある方を募集しても応募がないなど、マンパワーの確保に苦慮している。

委員：人口の自然増減、社会増減の表で、転出のところの年齢別、男女別の内訳のデータはあるか？県では女性の転出が多くなっているが、どの層の転出が多いのか。

事務局：データは持ち合わせていないが、H29 年 12 月から転出者を対象にアンケートを行っているが、それを見ると圧倒的に女性が多い。層としては 20 代が多い。



委員長：地域おこし協力隊の任期がそろそろだと思うが。

事務局：このたび募集をして一人決まったので、4月から2名体制、年度途中からはまた1名体制となる予定。

委員長：さまざまな意見が出たが、30年度に活かしてもらえたらと思う。

副委員長：3年がこれで終了するので、2年後には何らかの成果が残るように行政も努力をお願いしたい。

## 2 その他

事務局より“市川町総合戦略事業評価シート”（資料5）4枚への記入、返送を依頼（意見等・改善策・評価・特記事項の欄）

## 3 閉会